(19) 日本国特許庁 (JP) (12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-330551

(43)公開日 平成7年(1995)12月19日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号 庁内整理番号 \mathbf{F} I

技術表示箇所

A61K 7/06

審査請求 未請求 請求項の数3 FD (全 7 頁)

(21)出願番号 **特願平6-155182**

(22)出願日 平成6年(1994)6月13日 (71)出願人 000106324

サンスター株式会社

大阪府高槻市朝日町3番1号

(72)発明者 山本 和司

大阪府大阪市阿倍野区共立通2丁目1-3

(72)発明者 梶 真理子

大阪府高槻市上土室2丁目10-1

(72)発明者 池田 博美

大阪府髙槻市上土室2丁目10-1

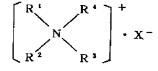
(74)代理人 弁理士 松尾 智弘

(54) 【発明の名称】 頭髪処理剤組成物

(57)【要約】

【構成】ケラチン還元物質(A)0.1~10重量% と、下記化1で表される第4級アンモニウム塩(B) 0.01~10重量%と、炭素数5~8の一価脂肪族ア ルコール及び/又は芳香族アルコールからなる有機溶剤 (C) 0.5~50重量%とを含有する。

【化1】



[化1中、R1 ~R4 のうちの2個は炭素数8~24の アルキル基又はアルケニル基、残りの2個は炭素数1~ 3のアルキル基、Xはハロゲン原子である。]

【効果】頭髪改質成分たる特定の第4級アンモニウム塩 が、特定の有機溶剤及びケラチン還元物質の作用によ り、頭髪の深部にまで多量に浸透するので、頭髪に持続 性のある優れた柔軟性を付与する。

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】ケラチン還元物質(A)O. 1~10重量 %と、下記化1で表される第4級アンモニウム塩(B) 0.01~10重量%と、炭素数5~8の一価脂肪族ア ルコール及び/又は芳香族アルコールからなる有機溶剤 (C) 0.5~50重量%とを含有することを特徴とす る頭髪処理剤組成物。

【化1】

$$\begin{bmatrix} R^{1} & R^{4} \\ R^{2} & R^{3} \end{bmatrix}^{+} \cdot X^{-}$$

[化1中、R1 ~R4 のうちの2個は炭素数8~24の アルキル基又はアルケニル基、残りの2個は炭素数1~ 3のアルキル基、Xはハロゲン原子である。]

【請求項2】第1液と第2液とからなる2剤式の頭髪処 理剤組成物において、前記第1液がケラチン還元物質 (A)を前記頭髪処理剤組成物の全量に基づき0.1~ 10重量%含有し、前記第2液が下記化2で表される第 20 報)。 4級アンモニウム塩(B)を前記頭髪処理剤組成物の全 量に基づき0.01~10重量%並びに炭素数5~8の 一価脂肪族アルコール及び/又は芳香族アルコールから なる有機溶剤(C)を前記頭髪処理剤組成物の全量に基 づき().5~5()重量%含有することを特徴とする頭髪 処理剤組成物。

【化2】

$$\begin{bmatrix} R^{1} & R^{4} \\ R^{2} & R^{3} \end{bmatrix}^{+} X^{-}$$

「化2中、R1 ~R4 のうちの2個は炭素数8~24の アルキル基又はアルケニル基、残りの2個は炭素数1~ 3のアルキル基、Xはハロゲン原子である。]

【請求項3】前記有機溶剤(C)が、ペンタノール、へ キサノール、2-フェニルエタノール、ケイ皮アルコー ル、フェニルプロパノール、α-メチルベンジルアルコ ール、フェノキシエタノール及びジメチルベンジルカル ビノールよりなる群から選ばれた少なくとも一種のアル 40 コールからなる請求項1又は2記載の頭髪処理剤組成 物。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【産業上の利用分野】本発明は頭髪処理剤組成物に係わ り、詳しくは頭髪に持続性のある柔軟性を付与するため の頭髪処理剤組成物に関する。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】頭髪

的、化学的な損傷を受け、そのためパサツキ、枝毛など が生じて、その正常な状態を損なわれる。そこで、従 来、かかる頭髪の損傷を防止したり、損傷した頭髪を修 復して正常な状態に回復させたりするために、ヘアリン ス、ヘアトリートメントなどの種々の頭髪処理剤組成物 が開発され、一部実用されている。

【0003】その多くは、第4級アンモニウム塩に代表 されるカチオン性界面活性剤、カチオン性重合体、ポリ マーラテックスなどの頭髪改質成分を頭髪の表面に吸着 10 させたり、アミノ酸などを頭髪の内部に浸透せしめたり することにより、頭髪の保護乃至改善を図るものである が、その効果に持続性が無いという問題があった。

【0004】損傷した頭髮に持続性のある修復を施すた めに、有機溶剤で頭髪を膨潤させ、もって頭髪改質成分 を頭髪の内部に浸透させることにより、頭髪の内部から 修復を図る方法が提案されており、頭髪処理剤組成物と して、例えば、システイン類の誘導体と、有機溶剤と、 カチオン性重合体(頭髪改質成分)とを組み合わせたも のが提案されている(特開平2-178216号公

【0005】しかしながら、この公報に開示の頭髪処理 剤組成物では、頭髪改質成分が頭髪の深部にまで浸透せ ず、頭髪の深部に作用することがないため、頭髪に一時 的な柔軟性を付与することはできても、持続性のある柔 軟性を付与することはできないという問題がある。

【0006】また、頭髪をセットし、且つ改質するため の頭髪処理剤組成物として、ケラチン還元性化合物と、 有機溶剤とを組み合わせたものが提案されている(特開 平5-294812号公報)。

30 【0007】しかしながら、この公報に開示の頭髪処理 剤組成物では、充分に満足の行く程度の柔軟性が頭髪に 付与されないという問題がある。

【0008】そこで、鋭意研究した結果、本発明者ら は、頭髪改質成分としての特定の第4級アンモニウム塩 をケラチン還元物質及び特定の有機溶剤と併用すること により、該第4級アンモニウム塩が頭髪の深部にまで速 やかに、且つ多量に浸透し、頭髪に非常に優れた柔軟性 を長期にわたって付与することができる頭髪処理剤組成 物が得られることを見出した。

【0009】本発明は、かかる知見に基づきなされたも のであって、その目的とするところは、頭髪改質成分の 頭髪への吸収・付着性(以下、「収着性」と称する。) 及び浸透性を改善することにより、頭髪に持続性のある 優れた柔軟性を付与し得る頭髪処理剤組成物を提供する にある。

[0010]

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため の本発明に係る頭髪処理剤組成物は、ケラチン還元物質 (A) O. 1~10重量%と、下記化3で表される第4 は、ドライヤー、パーマ、ヘアダイなどを施すと、物理 50 級アンモニウム塩(B)0.01~10重量%と、炭素 (3)

数5~8の一価脂肪族アルコール及び/又は芳香族アル コールからなる有機溶剤(C)0.5~50重量%とを 含有してなる。

3

[0011]

【化3】

$$\begin{bmatrix} R^1 & R^4 \\ R^2 & R^3 \end{bmatrix}^+ X^-$$

【0012】[化3中、R1~R4 のうちの2個は炭素 数8~24のアルキル基又はアルケニル基、残りの2個 は炭素数1~3のアルキル基、Xはハロゲン原子であ る。]

【0013】本発明におけるケラチン還元物質(A)の 具体例としては、チオグリコール酸;チオグリコール酸 アンモニウム、チオグリコール酸トリエタノールアミ ン、チオグリコール酸ジエタノールアミン、チオグリコ ール酸モノエタノールアミン、チオグリコール酸ナトリ ウム等のチオグリコール酸塩; L-システイン; N-ア 20 ウム塩が挙げられる。 セチルーLーシステイン等のLーシステイン誘導体;L ーシステイン塩酸塩、N-アセチル-L-システイン塩 酸塩等のL-システイン誘導体の塩;システアミン、シ*

*ステアミン塩酸塩等のシステアミン類; 亜硫酸; 亜硫酸 水素;亜硫酸ナトリウム;亜硫酸水素ナトリウムが例示 される。

【0014】なかでも、チオグリコール酸、チオグリコ ール酸アンモニウム、チオグリコール酸モノエタノール アミン、Lーシステイン、NーアセチルーLーシステイ ン、Lーシステイン塩酸塩が好ましい。

【0015】本発明におけるケラチン還元物質(A) は、1種単独を配合してもよく、必要に応じて2種以上 10 を組み合わせて配合してもよい。

【0016】本発明におけるケラチン還元物質(A)の 配合量は、組成物の全量に基づき、0.1~10重量 %、好ましくは1.0~8.0重量%である。同配合量 が0.1重量%未満の場合は柔軟性付与効果が充分に発 現されず、一方同配合量が10重量%を越えた場合は頭 髪の損傷が激しくなって、滑らかな感触が損なわれる。

【0017】本発明における上記化3で表される第4級 アンモニウム塩(B)の具体例としては、次の表1に示 すジ長鎖アルキル又はジ長鎖アルケニル第4級アンモニ

[0018]

【表1】

| R/~R のうち2ケ | 残りの2ケ | X |
|--|---|----------|
| C _a H ₁₇ — | CH, - | C1 |
| $C_{10}H_{21} =$ | CH | C1 |
| C ₁₂ H ₂₆ - | CH ₄ | Cl |
| $C_{12}H_{28} - /C_{14}H_{29} - (224)$ | CH ₄ - | Ci |
| C ₁₄ H ₂₉ - | CH, CH, - CH, - | Cl |
| C ₁₈ H ₈₈ | CH _a – | Ci Ci |
| $C_{19}H_{87}$ — | CH, - | CI |
| C _m H _u – | CH• - | CI |
| C ₂₂ H ₄₆ - C ₂₁ H ₄₀ - | CH ₃ - CH ₄ - CH ₃ - | CI |
| C24H49 - | CH, - | CI |
| C ₈ FI ₁₇ — | CH ₃ – | Br |
| C ₁₀ H ₂₁ - | CH ₃ - | Br |
| C12H25 | CH ₃ – CH ₃ – | Br |
| $C_{12}H_{20} = /C_{11}H_{20} = (ココイル)$ $C_{14}H_{20} =$ | СН, – СН, – СН, – | Br |
| C14H29 - | CH, - | Br |
| C ₁₉ H ₃₃ - | CH ₄ - | Br |
| CuHw - | CH _s – | Br |
| C ₂₀ H _{4t} - | CH ₄ | Br |
| C ₃₂ H ₄₅ | CH | Br |
| C24H49 - | CH, - | Br |
| $\frac{C_{24}H_{40}-}{C_{0}H_{15}-}$ | CH, - CH, - CH, - | Cl |
| C ₁₀ H ₁₀ | CH | Cl |
| C ₃₂ H ₂₅ | CH _s – | Cl |
| C ₁₄ H ₂₇ - | CH _a - | C1 |
| C ₁₆ H ₄₁ - | CH | Či |
| CiaHas - | CH | Cl |
| C ₁₈ H ₅₅ — C ₂₀ H ₃₉ — | CH | C1 |
| C ₂₂ H ₄₃ - | CH, – CH, – | Cl |
| C ₂₁ H ₁₇ - | CH• | Čĺ |
| C_8H_{18} – | CH• - | Br |
| $C_{10}H_{19} -$ | CH, – CH, – | Br |
| C ₁₂ H ₂₃ — | CH, - | Вг |
| C ₁₄ H ₂₇ - | СН, | Br |
| C ₁₆ H ₈₁ - | CH ₃ - | Br |
| C ₁₈ H ₂₆ | CH _s - | Br |
| C ₂₀ H ₃₀ — | CH ₃ – | Br |
| C ₂₂ H ₄₃ — | ÇH, – | Br |
| C24H47 | CH, - | Br |
| こうに しょうしん オリマンエー | ×塩ルジュニマロ | |

【0019】なかでも、塩化ジデシルジメチルアンモニ ウム、塩化ジココイルジメチルアンモニウム、塩化ジラ ウリルジメチルアンモニウム、塩化ジミリスチルジメチ ルアンモニウム、塩化ジセチルジメチルアンモニウム、※50 【0020】本発明における第4級アンモニウム塩

※塩化ジステアリルジメチルアンモニウム、塩化ジオレイ ルジメチルアンモニウムが、優れた柔軟性を付与するの で、好ましい。

(B)は、1種単独を配合してもよく、必要に応じて2 種以上を組み合わせて配合してもよい。

【0021】本発明における第4級アンモニウム塩

(B)の配合量は、組成物の全量に基づき、0.01~ 10重量%、好ましくは0.1~7重量%である。同配 合量が 0.01重量%未満の場合は柔軟性付与効果が充 分に発現されず、一方同配合量が10重量%を越えた場 合は、増量に相応した柔軟性向上効果が得られないばか りでなく、皮膚に対する刺激性が強くなる。

5~8の一価脂肪族アルコール及び/又は芳香族アルコ ールからなるものである。

【0023】一価脂肪族アルコールは、直鎖アルコール 及び分岐アルコールのいずれであってもよく、また飽和 アルコール及び不飽和アルコールのいずれであってもよ い。炭素数5~8の一価脂肪族アルコールとしては、1 ーペンタノール、2ーペンタノール、3ーペンタノー ル、ヘキサノール、2-メチル-1-ペンタノールが例 示される。

アルコール又は不飽和アルコールである。芳香族アルコ ールとしては、ベンジルアルコール、2-フェニルエタ ノール、ケイ皮アルコール、フェニルプロパノール、フ ェノキシエタノール、ジメチルベンジルカルビノール、 ベンジルオキシエタノール、トリルアルコール、 $\alpha - x$ チルベンジルアルコールが例示される。

【0025】本発明における有機溶剤(C)としては、 1-ペンタノール、2-ペンタノール、3-ペンタノー ル、ヘキサノール、2-フェニルエタノール、ケイ皮ア ルコール、フェニルプロパノール、α-メチルベンジル 30 アルコール、フェノキシエタノール、ジメチルベンジル カルビノールが浸透性促進効果が高いので特に好まし

【0026】本発明における有機溶剤(C)は、1種単 独を配合してもよく、必要に応じて2種以上を組み合わ せて配合してもよい。

【0027】本発明における有機溶剤(C)の配合量 は、組成物の全量に基づき、0.5~50重量%、好ま しくは1.0~20重量%である。同配合量が0.5重 量%未満の場合は浸透性促進効果が認められず、一方同 40 評価に基づく総合評価を、次の評価方法により行った。 配合量が50重量%を越えた場合は、組成物としての剤 の安定性が悪くなる。

【0028】本発明に係る頭髪処理剤組成物は、ケラチ

ン還元物質(A)、第4級アンモニウム塩(B)及び有 機溶剤(C)の全てを1剤に含有する1剤式の頭髪処理 剤組成物であってもよく、ケラチン還元物質(A)を含 有する第1液と、第4級アンモニウム塩(B)及び有機 溶剤(C)を含有する第2液とからなる2剤式の頭髪処 理剤組成物であってもよい。この種の2剤式の頭髪処理 剤組成物とした場合には、頭髪に効率的に柔軟性を付与 することができる。

【0029】その他、必要に応じて、本発明の頭髪処理 【0022】本発明における有機溶剤(C)は、炭素数 10 剤組成物に、その性能を損なわない範囲で、さらに油 分、着色料、上記化3で表される第4級アンモニウム塩 を除く他の界面活性剤、pH調整剤、金属封鎖剤、香 料、水、エタノールなど、頭髪処理剤用として従来公知 の成分を配合してもよい。

【0030】本発明に係る頭髪処理剤組成物は常法によ り製造することができ、液状、乳液状、クリーム状、泡 沫状など種々の形態とすることができ、またリンス、ト リートメント、ヘアクリーム、ヘアブローなどとして、 通常の使用法により頭髪に適用することができる。な 【0024】芳香族アルコールは、芳香環を有する飽和 20 お、必要に応じて、本発明に係る頭髪処理剤組成物を頭 髪に適用した後に、酸化剤による処理を施すことも可能 である。

[0031]

【作用】頭髪改質成分(柔軟性付与成分)たる特定の第 4級アンモニウム塩にケラチン還元物質及び特定の有機 溶剤が添加配合されているので、該第4級アンモニウム 塩の頭髪に対する収着性及び浸透性が向上する。その結 果、持続性のある優れた柔軟性が頭髪に付与される。

[0032]

【実施例】以下、本発明を実施例に基づいてさらに詳し く説明するが、本発明は下記の実施例に何ら限定される ものではなく、その要旨を変更しない範囲において適宜 変更して実施することが可能なものである。なお、以下 において、「%」は、「重量%」を示す。

【0033】 〔実施例1~16及び比較例1~6(ヘア トリートメント)〕表2及び表3に実施例1~16及び 比較例1~6として示す22種の頭髪処理剤組成物(へ アトリートメント)を常法にて調製し、各頭髪処理剤組 成物の収着性、浸透性、柔軟性の各評価及びこれらの各

[0034]

【表2】

| | | | | | | | | | 0 | | |
|----------------------|------------|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|--------------|-------|
| 実施例(%) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 比較例(%) | | | | | | | | | | | |
| チオグリコール酸アンモニウム | 6.5 | - | 10.0 | 6.5 | 1.0 | 8.0 | 6.5 | 6,5 | 6.5 | 6.5 | |
| Lーシステイン | | 6.5 | | _ | - | _ | - | - | | | |
| 亜硫酸水素ナトリウム | | - | | _ | - | - | _ | : | - | - | 6.5 |
| 塩化ジステアリルジメチルアンモニウム | 2.0 | [- | _ | _ | 2.0 | 2.0 | 0.1 | 7.0 | 2.0 | 2.0 | 2.0 |
| 塩化ジココイルジメチルアンモニウム | | 2.0 | 2.0 | 10.0 | | | | - | - | - | - |
| [臭化ジステアリルジメチルアンモニウム | | I | _ | _ | _ | _ | _ | - 1 | - | <u> </u> | |
| _塩化ステアリルトリメチルアンモニウム | _ | _ | | - | - | | _ | - | _ | _ | _ |
| 2-フェニルエタノール | 3.0 | 50.0 | 3.0 | _ | _ | _ | - | - | 1.0 | 20.0 | 3.0 |
| ジメチルベンジルカルビノール | _ | _ | - | 3.0 | 3.0 | 3.0 | 3,0 | 3.0 | _ | _ | - |
| ベンジルアルコール | | _ | - | _ | | _ | | | _ | _ | _ |
| ベンジルオキシエタノール | - | _ | 1 | _ | - | | - | 1 | 1 | - | |
| 精製水 | 残部 | 残部 | 残部 | 残部 | 残部 | 残部 | 残部 | 残部 | 残部 | 残部 | 残部 |
| pH調整剤(pH9.0 に調整) | 適量 | 通量 | 適量 | 適量 | 適量 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 収着性 | 0 | | 0. | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 評 浸透性 | 5 | 5 | 5 | 5 | 4 | 5 | 4 | 5 | 4 | 5 | 3 |
| 価 柔軟性 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | . 0 |
| 総合評価 | 0 | | 0 | 0 | 0 | Ó | 0 | 0 | \circ | Ö | 0 |

【0035】

* *【表3】

| 実施例(%) | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | | | | | | |
|---------------------|----------|-------|---------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------------|
| 比較例 (%) | | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| チオグリコール酸アンモニウム | 6.5 | 6.5 | 0.1 | 6.5 | 6.5 | | 6.5 | 6.5 | 6.5 | 6.5 | 6.5 |
| L ーシステイン | - | ı | | | - | _ | | - | _ | _ | _ |
| 亜硫酸水素ナトリウム | | - | | | | | - | _ | - | - | _ |
| 塩化ジステアリルジメチルアンモニウム | | 2.0 | 2.0 | 0.01 | 2.0 | 2.0 | - | _ | 2.0 | - | 2.0 |
| 塩化ジココイルジメチルアンモニウム | _ | | - | 2.0 | 2.0 | - | - | - | ı | _ | |
| 臭化ジステアリルジメチルアンモニウム | 2.0 | | - 1 | _ | _ | | | | _ | | |
| 「塩化ステアリルトリメチルアンモニウム | | | | | | - | | 2.0 | | - | |
| 2-フェニルエタノール | 3.0 | ı | 3.0 | 3.0 | 0.5 | 3.0 | 3.0 | 3.0 | 1 | | |
| ジメチルベンジルカルビノール | | ı | ı | Į | 1 | - | | | _ | _ | |
| ジェチレングリコールモノエチルエーテル | - | 1 | 1 | - | 1. | | _ | _ | _ | 3.0 | |
| ベンジルアルコール | | 3.0 | - | _ | _ [| _ | - | | | | |
| ブタノール | <u> </u> | _ | - | _ | - | _ | | | | _ | 3.0 |
| 精製水 | 残部 | 残部 | 残部 | 残部 | 残部 | 残部 | 残部 | 残部 | 残部 | 残部 | 残部 |
| pH調整剤 (pH9.0 に調整) | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 | 適量 | 通量 | 適量 | | 通量 | 適量 | 適量 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 収着性 | | 0 | 0 | 0 | 0 | × | × | Δ | × | × | Δ |
| 評 浸透性 | 3 | э | 5 | 5 | 5 | 1 | 1 | 3 | 2 | 1 | 2 |
| 価 柔軟性 | 0 | 0 | \circ | 0 | \circ | × | × | Δ | × | × | \triangle |
| 総合評価 | | 0 | 0 | 0 | \circ | × | х | × | × | × | × |

【0036】(評価方法)1. 収着性の評価

予め重量を正確に測定した毛束約1gを、40°Cに保 持した各頭髪処理剤組成物に浸漬した後、水ですすぎ、 室温で乾燥した。乾燥後の重量を正確に測定し、処理前 30 準で官能的に評価した。 の重量に対する増加量すなわち吸収・付着量(以下、収 着量と記す)の割合を%で求め、収着性を次の判定基準 で評価した。

◎:収着量(%)が10%以上のもの

○: 収着量(%)が5%以上10%未満のもの

△:収着量(%)が2%以上5%未満のもの

×: 収着量 (%) が2%未満のもの

【0037】2. 浸透性の評価

毛束1gを、40°Cに保持した各頭髪処理剤組成物に 浸漬した後、水ですすぎ、室温で乾燥した。乾燥後の頭 40 ×:上記条件を1つ以上満たさないもの 髪の断面をアニオン性染料であるオレンジIIのO.1% 水溶液で染色した後、染色度合を顕微鏡で観察し、頭髪 の断面の半径(r)に対する浸透度を次の判定基準で評 価した。

5:完全に中心まで浸透しているもの

4:3r/4まで浸透しているもの(r:頭髪の断面の 半径)

3:2 r/4まで浸透しているもの

2: r/4まで浸透しているもの

表面付着のみのもの

※【0038】3. 柔軟性の評価

毛東8gを、各頭髪処理剤組成物にて処理した後、専門 パネラー(20代女性)5名で、柔軟性を、次の判定基

○:4名以上が柔軟性があると回答したもの

○:3名が柔軟性があると回答したもの

△:2名が柔軟性があると回答したもの。

×:1名以下が柔軟性があると回答したもの

【0039】4.総合評価

上記1~3の3項目についての評価結果に基づき、各頭 髪処理剤組成物を次の判定基準で総合評価した。

○:収着性評価が◎又は○、浸透性評価が3以上、 柔軟性評価が◎又は○の各条件を全て満たすもの

【0040】上記1~4の各評価結果を、先の表2及び 表3に示す。両表に示すように、実施例の頭髪処理剤組 成物は、収着性、浸透性及び柔軟性のいずれも優れてお り、頭髪処理剤組成物として高い総合評価を与え得るも のであるのに対して、比較例の頭髪処理剤組成物は、上 記3つの評価項目のうちの少なくとも1項目以上の点で 極端に劣っており、頭髪処理剤組成物として低い総合評 価しか与え得ないものである。

【0041】〔実施例17(ヘアクリーム)〕60℃に ※50 加熱した成分Φに60℃に加熱した成分②を加えて撹拌 混合した。次いで、冷却しながら成分③を加え、ヘアク *【0042】 リームを製造した。

| 成分 | 配合量(%) |
|--------------------|--------|
| (成分①) | |
| 塩化ジステアリルジメチルアンモニウム | 2.0 |
| 2ーフェニルエタノール | 3.0 |
| 1 ,3-ブチレングリコール | 1.0 |
| POE(5)セチルエーテル | 1.2 |
| カルボキシビニルポリマー | 0.1 |
| L ーシステイン | 1.0 |
| 水 | 残量 |
| (成分❷) | |
| 流動パラフィン | 2.0 |
| (成分③) | |
| トリエタノールアミン | 0.1 |
| 合計 | 100.0 |

【 $0\,0\,4\,3$ 】 〔実施例 $1\,8$ (2 剤式のヘアトリートメン 2 ※ 2 液とを攪拌混合して、 2 剤式のヘアトリートメントを ト)〕第1液の各成分を攪拌混合するとともに、第2液 製造した。

の各成分を攪拌混合した。次いで、これらの第1液と第 * 【0044】

| た。後いて、これのの第1級と第二 【0044】 | |
|-------------------------|--------|
| 成分 | 配合量(%) |
| (第1液) | |
| チオグリコール酸アンモニウム(50%) | 12.0 |
| エデト酸2ナトリウム | 0.1 |
| プロピレングリコール | 5.0 |
| POE(60)硬化ヒマシ油 | 0.5 |
| リン酸 | 微量 |
| 水 | 残量 |
| 合計 | 100.0 |
| (第2液) | |
| 塩化ジオレイルジメチルアンモニウム | 2.0 |
| ジメチルベンジルカルビノール | 3.0 |
| POE(60)硬化ヒマシ油 | 0.5 |
| エタノール | 10.0 |
| 水 | 残量 |
| 合計 | 100.0 |

分●を攪拌混合して80℃に保つとともに、成分❷を攪 拌混合して80℃に保った。次いで、これらの成分②と★ 【0046】

【0045】〔実施例19(ヘアトリートメント)〕成 ★成分②とを攪拌混合しながら、成分③を加えてヘアトリ ートメントを製造した。

| 成分 | 配合量(%) |
|-------------------|--------|
| (成分Φ) | |
| 塩化ジオレイルジメチルアンモニウム | 2.0 |
| ベンジルアルコール | 10.0 |
| 高分子量ジメチルポリシロキサン | 1.0 |
| セチルアルコール | 9.0 |
| ジメチルポリシロキサン | 3.0 |
| (成分❷) | |
| 亜硫酸ナトリウム | 0.5 |
| プロピレングリコール | 5.0 |
| 防腐剤 | 微量 |
| 水 | 残量 |

12

1 1

(成分3)

香料

合計

0.1 100.0

【0047】〔実施例20(泡沫状へアトリートメン ト)〕成分❶を常温にて均一に撹拌した後、成分❷を加 えて、原液を調製した。この原液90重量部と噴射剤 *

*(液化石油ガス)10重量部をエアゾール容器に充填 し、泡状へアトリートメントを製造した。

[0048]

| 成分 | 配合量(%) |
|-------------------------|--------|
| (成分❶) | |
| 塩化ジミリスチルジメチルアンモニウム | 2.0 |
| ジメチルベンジルカルビノール | 3.0 |
| 高分子量ジメチルポリシロキサン | 1. 0 |
| ジメチルポリシロキサン | 3.0 |
| ポリエーテル変性シリコーン | 0.5 |
| チオグリコール酸トリエタノールアミン(50%) | 7.0 |
| 水 | 残量 |
| (成分❷) | |
| エタノール | 5.0 |
| 香料 | 0.1 |

頭髪の深部にまで多量に浸透し、頭髪に持続性のある優 れた柔軟性が付与された。

【0050】

【0049】これら実施例17~20の頭髪処理剤組成 ※【発明の効果】本発明に係る頭髪処理剤組成物は、頭髪 物を頭髪に適用した場合にも、第4級アンモニウム塩が 20 改質成分たる特定の第4級アンモニウム塩が、特定の有 機溶剤及びケラチン還元物質の作用により、頭髪の深部 にまで多量に浸透するので、頭髪に持続性のある優れた ※ 柔軟性を付与する。